

整理番号	2-①	課名	農林水産振興課
------	-----	----	---------

戦略分類	2. 若者仕事		
戦略事業名	①「お～い★さかな君」発掘・育成事業		
予算事業名	「お～い★さかな君」発掘・育成事業		
平成30年度実績額	641,820円	令和元年度予算額(6月補正後)	2,093,000円

事業の概要(実績)	H27	H28	H29
	御食国・若狭を支える大島の漁業の一層の活性化に向けて、漁業に従事することを希望する男性(=「お～い★さかな君」)を全国的に募集し、自立に向けた支援を行う。	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②水産関係の地域おこし協力隊や移住者募集 ③ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) (実績) ふくい水産カレッジ3名入校 ①2名の受講費用負担(このほか1名は国OJT制度利用) ②3名分の交通費補助(交付先;大島漁協)	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②水産関係の地域おこし協力隊や移住者募集 ③ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) (実績) ふくい水産カレッジ2名入校 ①2名の受講費用負担 ②2名分の交通費補助(交付先;大島漁協) このほか、県外出身者(富山県)1名が新規に就漁開始(H30.2月) ※就漁者住宅確保支援あり また、H30.4月から新たに地域おこし協力隊1名が着任し、大島漁協を拠点に活動
	H30	R元	
	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②水産関係の地域おこし協力隊や移住者募集 ③ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) (実績) ふくい水産カレッジ1名入校 ①1名の受講費用負担 ②1名分の交通費補助(交付先;大島漁協) 県外出身者(富山県)1名が新規に就漁開始(H30.2月) H30.4月から新たに地域おこし協力隊1名着任し、大島漁協を拠点に活動	R元	



地域おこしのリアルが見える

福井県 地域おこし協力隊 体験ツアー

幸福度日本一の福井県で
地域おこしのリアルを見つける2日間。

幸福度日本一を誇る福井県で、地域おこし協力隊を募集する市町村をめぐり体験ツアーを開催！
「協力隊に興味があるけれど、うまく地域に馴染めるか心配…」
「まずは活動地域を自分の目で見てみたい！」
そんなあなたにぴったりな一日二日の体験ツアーです。

● 実施日
2018年11月10日(土)～11日(日)

福井県までの
交通費(往復)
半額補助！

※詳しくは募集要
ご覧ください。



地域の人たちと
ふれあい

成果を測る指標(KPI・数値目標)	新規漁業従事者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成26年度)	—		H30年度末	6人	
	目標値 (令和元年度末)	累計 10人		R元年6月末	6人	60%

① 数値目標達成状況		達成が厳しい状況
達成状況の要因分析	達成に向けての今後の取組方針	
<p>漁業就業支援フェアなどの漁業への就業への意識が高い参加者が集まる催事に複数参画し、新規就漁者の獲得に努めてきた。 新規就漁者の内訳: 町内出身者5名、県外出身者1名</p>	<p>引き続き、新規就漁者のためのふくい水産カレッジ入校への支援や地域おこし協力隊の募集活動を実施</p>	

② 事業に取組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)		
ノウハウの内容	<p>①就漁希望者募集の際の町のPR方法と内容検討(本町での就漁のメリット等) ②就漁希望者のニーズの把握</p>	
ノウハウの活用状況・活用方針	<p>相談体制の充実(漁協との連携による有用な情報提供、就漁希望者と受入側との橋渡し役となりマッチングを進める)</p>	

③ 外部有識者による意見の事業への反映		反映している
反映した・反映を予定している場合 (どのように反映したか・反映するか)	反映できない場合 (その理由と、今後の方針)	
<p>①取組 平成30年4月から新たに地域おこし協力隊が1名着任(大島漁業協同組合に勤務)</p> <p>②取組 カキの養殖事業を展開し今後の収入確保につなげる計画である。</p>		

④ 事業成果
<p>平成30年度における新たな新規就漁者は誕生していない。 引き続き、地域おこし協力隊の募集や就漁フェアなどを通じて、人材確保に努める。</p>

内部評価結果
<p>・KPIの達成については、厳しい状況である。 ・1次産業についてのイメージと、実際に就業してからのギャップは常に伴うものであるという認識のもとで、円滑な接続に向けた方策を今後とも検討していく必要がある。特に漁業の場合は、漁業権の問題もあることから、慎重な取組が求められる。</p>

外部評価の結果
<p>就労・雇用については、人口減少の要因の大きな部分を占めていることが考えられるため、安定した”しごと”の創出という観点からも、地域との協働も含めながら推し進めるよう努められたい。 また、今後も新規就漁者のサポートに積極的に取り組まれたい。 (各事業共通事項) 各事業のKPIの達成・未達成の要因分析を踏まえ、第2次戦略に向けて、事業効果の点検・評価はもとより、事業の目的や意義についても、移住・定住につながるよう改善の視点を持ち取り組みを進められたい。</p>

整理番号	2-②	課名	農林水産振興課
------	-----	----	---------

戦略分類	2. 若者仕事
------	---------

戦略事業名	② 1次産業スタート支援事業
-------	----------------

予算事業名	一次産業スタート支援事業
-------	--------------

平成30年度実績額	33,394,956円	令和元年度予算額(6月補正後)	7,737,000円
-----------	-------------	-----------------	------------

事業の概要(実績)	H27	H28	H29
	<p>新規就業者や移住者が、自立した農林水産業を営めるよう、研修への支援や住宅確保に係る支援等を行う。加えて、耕作放棄地等の管理・仲介を行い、新規就業者への橋渡しを行う。</p>	—	<p>①一次産業活動拠点施設の整備(旧大島公民館改修)</p> <p>(実績)</p> <p>①本体施設改修(H28繰越) 49,416,234円</p> <p>備品等購入(H28繰越) 2,972,160円</p> <p>空調設備改修(H29) 14,524,252円</p>
	H30	R元	
	<p>①一次産業活動拠点施設の整備(旧大島公民館改修)</p> <p>(実績) 外壁等改修 19,310,400円</p> <p>備品購入(電化製品) 961,200円</p> <p>〃 (ベット等) 4,298,400円</p> <p>〃 (寝具等) 389,161円</p> <p>②一次作業活動拠点施設の管理</p> <p>(実績) 日常管理 1,468,800円</p> <p>③一次産業体験事業</p> <p>(実績) 10人(66泊) 462,000円</p>	/	



成果を測る指標(KPI・数値目標)	農林水産業新規就業者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成26年度)	3人		H30年度末	3人	30%
	目標値 (令和元年度末)	累計 10人		R元年6月末	6人	60%

① 数値目標達成状況		達成が厳しい状況
達成状況の要因分析	達成に向けての今後の取組方針	
<p>一次産業活動拠点施設の本格的な運営を開始し始めたが、その利用者はどちらかと言うと限定的である。</p>	<p>関係人口の増加に繋げる一次産業体験の取組を活発化させる必要がある。</p>	

② 事業に取組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)	
ノウハウの内容	<p>一次産業活動拠点施設を中心として、そこから一次産業体験をする圃場までの交通手段の確保など、新たな課題や改善点なども出ている。</p>
ノウハウの活用状況・活用方針	<p>拠点施設を中心として、本町で活動するために必要な交通手段の確保やニーズへの対応等、就業に繋がる幅広い支援をさらに検討する必要がある。</p>

③ 外部有識者による意見の事業への反映		反映を予定している
反映した・反映を予定している場合 (どのように反映したか・反映するか)	反映できない場合 (その理由と、今後の方針)	
<p>就農等を希望する町外の方が地元で作業しやすい環境を醸成するため、行政がその橋渡し役を行い、町内の農業者から得た情報等(就農希望者受入の体制準備や農作業の範囲)を相談時に丁寧に発信していく。</p>		

④ 事業成果
<p>一次産業活動拠点施設の整備が完了し、本格的な運用を始め、県内外からの幅広い利用者の受入れが可能となったものの、平成30年度においては、限定的な利用となった。</p>

内部評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの達成については、厳しい状況である。 ・施設としての整備は完了したが、そこから具体的に活動を展開するにあたっての課題が、事業を進める中で出てきていることから、それらの課題解決に向けた取組を行いながら、関係人口の拡大とともに、新規就業につなげていく必要がある。

外部評価の結果
<p>就労・雇用については、人口減少の要因の大きな部分を占めていることが考えられるため、安定した”しごと”の創出という観点からも、地域との協働も含めながら推し進めるよう努められたい。</p> <p>新規就農者が持つ町の印象(イメージ・感想)を把握するなど事業展開の参考とされたい。</p> <p>(各事業共通事項)</p> <p>各事業のKPIの達成・未達成の要因分析を踏まえ、第2次戦略に向けて、事業効果の点検・評価はもとより、事業の目的や意義についても、移住・定住につながるよう改善の視点を持ち取り組を進められたい。</p>

整理番号	2-③	課名	農林水産振興課
------	-----	----	---------

戦略分類	2. 若者仕事		
戦略事業名	③「儲ける」1次産業支援事業		
予算事業名	「儲ける」一次産業支援事業		
平成30年度実績額	6,493,450円	令和元年度予算額(6月補正後)	3,111,000円

	H27	H28	H29
	<p>農林水産業における経営基盤の整備及び強化を図るための支援を行うとともに、加工品開発やブランド化による付加価値の高い商品開発を推進する。加えて、販売ルートの拡大などにより、効率的で自立した、第1次産業の経営体を育成する。</p>	<p>①漁業近代化施設等整備事業により、地元漁協が行うプロトン凍結機の導入を支援(H27繰越)</p> <p>②ブランド化研修会の開催(商品開発指導等)</p> <p>③販売促進戦略調査の実施(マーケティング調査、アマダイの商品化)</p> <p>(実績)</p> <p>①高鮮度維持凍結機1台導入(道の駅「うみんびあ大飯」設置)</p> <p>②実施:平成28年11月22日 受講者21名(特産加工グループ等の生産者)</p> <p>③実施1:平成28年11月21日 内容:アカアマダイ(若狭ぐじ)の販売路開拓・販売促進に向けた現地調査及び指導 実施2:平成29年1月17日 内容:アカアマダイ(若狭ぐじ)の商品力・販売力に関する踏査及び指導(16名参加)</p>	<p>①おいおいブランド認証制度の構築</p> <p>(実績)</p> <p>①第1回委員会 実施:平成29年8月10日 内容:「おいおいブランド認証・育成支援推進委員会」発足、今後の進め方確認 <H29.9月~10月に、おいおいブランド認証・育成支援推進制度に関する調査実施></p> <p>第2回委員会 実施:平成29年11月18日 内容:ブランド認証制度、育成支援制度、ブランド認証マーク等の検討 <H30.1月に、おいおいブランド認証マーク制作に係るプロポーザル実施></p> <p>第3回委員会 実施:平成30年2月23日 内容:おいおいブランド認証マークの決定、ブランド認証の基準の決定、認証事業のPRチラシ作成検討</p>

	H30	R元
事業の概要(実績)	<p>①おいおいブランド事業推進</p> <p>②特産品のPR</p> <p><実績></p> <p>① 推進委員会 平成30年6月18日、8月6日、11月28日 育成支援プログラム 平成30年8月7日 内容:「マーケティングセミナー」 研修会(視察、販売者との意見交換) 平成30年2月13,14日 スーパーマーケットトレードショー(幕張メッセ) ふくい青山291 日本橋三越 日本百貨店</p> <p>② 町内中学生レシピコンテスト(応募数100レシピ) 町内小売店においてレシピコンテスト優秀作品販売会(2回) みなとオアシスSea級グルメ全国大会参加 御食国・和食の祭典・in京都参加 道の駅EXPO大阪2019参加</p>	



事業の概要(実績)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	新商品開発数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成26年度)	—		H30年度末	7件	140%
	目標値 (令和元年度末)	累計 5件		R元年6月末	7件	140%

① 数値目標達成状況 達成が見込める状況

達成状況の要因分析	達成に向けての今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> ・おいブランド認証品の生産規模・価格・流通などから、市場調査(ニーズの把握)が必要である。 ・また、これらのブランド認証品等の販路を拡大させていくための販促活動も併せて実施することが重要である。 ・ブランド認証制度活用による事業効果をどう発揮させていくかは、生産者や事業者等の理解と協力が必須となる。 ・生産者等の意欲を高めていくような取組を進めながら、高付加価値化、ブランド化を進めていく必要がある。 	市場ニーズに合った特産品の高付加価値化と販促活動の継続実施

② 事業に取組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

ノウハウの内容	各特産品の現在の生産量、販売規模等の状況と市場ニーズから、生産者の今後の取組目標を確認し、その目標達成に向けた課題解決や改善点等を洗い出し、販売促進に繋げていく戦略を立てていく。
ノウハウの活用状況・活用方針	第1ステップとして、現状把握と市場調査(R元)を行い、次の段階で問題解決のための課題洗い出しと今後、取り組む戦略を構築する。

③ 外部有識者による意見の事業への反映 反映を予定している

反映した・反映を予定している場合 (どのように反映したか・反映するか)	反映できない場合 (その理由と、今後の方針)
町外、県外など、対外的に町の特産品等の発信を強化していく前に、地元を中心とした内部(地域、学校)への町の取組の認識強化や生産者等の販売強化に向けた認識の把握に努める。	

④ 事業成果

<p>おいブランドとして認定した4品目(梅、じねんじょ、しいたけ、若狭甘鯛)をまずは町民へ浸透させるため、中学生によるレシピコンテストを実施し、町民への周知を図ることができた。</p> <p>平成29年度末までの新商品開発4商品(①若狭甘鯛の刺身盛り、②福井サーモンの刺身盛り、③飲む梅ゼリー、④野菜入りジャコ天)</p> <p>平成30年度における新商品の開発3商品(①若狭甘鯛の押し寿司、②福井サーモンの生ハム、③福井サーモンのユッケ)</p>
--

内部評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・KPIについては、現段階において達成している状況である。 ・そのような中、庁内における認識と担い手の認識について足並みをそろえ、両輪で進めていくという意識が重要である。また、個々の産品に応じたブランド化を進めながら、総合的な”おい”ブランドの構築に向けて取り組んでいく必要がある。
--

外部評価の結果

<p>就労・雇用については、人口減少の要因の大きな部分を占めていることが考えられるため、安定した”しごと”の創出という観点からも、地域との協働も含めながら推し進めるよう努められたい。</p> <p>また、地元の中学生など若者参加型の継続した取り組みやより広域への周知に期待したい。</p> <p>(各事業共通事項)</p> <p>各事業のKPIの達成・未達成の要因分析を踏まえ、第2次戦略に向けて、事業効果の点検・評価はもとより、事業の目的や意義についても、移住・定住につながるよう改善の視点を持ち取り組みを進められたい。</p>

整理番号	2-④	課名	農林水産振興課
------	-----	----	---------

戦略分類	2. 若者仕事		
戦略事業名	④ まるごとジビエ特産事業		
予算事業名	まるごとジビエ特産事業		
平成30年度実績額	161,633円	令和元年度予算額(6月補正後)	281,000円

H27	H28	H29
<p>獣肉を得るための狩猟ハンターへの支援から、食材として活用し、町の特産品としてPRするための支援まで、一体的に取り組む。また、ジビエ料理・加工品の開発・研究に取り組むにあたっては、町の料理人等と連携することで、地域の特性を活かしたものとなるよう努める。</p>	<p>①解体施設等の先進地視察調査 ②獣解体処理技術習得研修会(止め刺し) ③ジビエ料理開発用の獣肉提供</p> <p>(実績) ①視察先: 京都府南丹市美山町(平成29年3月22日) 猟友会会員等18名参加 ②実施: 平成29年3月15日 12名受講 ③7事業所に提供し、3商品開発</p>	<p>①ジビエ料理開発用の獣肉提供</p> <p>(実績) ①7事業所に提供</p>

H30	R元
<p>①解体施設等の先進地視察及び解体技術講習会 ②ジビエ料理開発用の獣肉提供(3事業所)</p> <p>(実績) ①視察先: 美浜町新庄「BON1029」 高浜町坂田「若狭高浜いのしかい」 ②実施: 平成31年3月18日 15名参加 ③3事業所に獣肉を提供し、新たに3つの料理レシピ開発(シカカツバーガー、シカ胡麻ソテー、シカ肉筋膜と筋のオリーブオイル炒め)</p>	R元

事業の概要(実績)



解体技術講習会



シカカツバーガー

成果を測る指標(KPI・数値目標)	ジビエ料理開発件数		⇒	現 状		KPI達成率(%)	
	基準値(平成26年度)	—		H30年度末	3件		60%
	目標値(令和元年度末)	累計 5件		R元年6月末	6件		120%

① 数値目標達成状況		達成が見込める状況
達成状況の要因分析	達成に向けての今後の取組方針	
町内料理店などへ獣肉を提供することにより、一定の目標は達成することができたが、ジビエ料理メニューの活用が限定的である。	引き続き、町内の料理店等と連携を図り、料理メニューの利活用について協議していく必要がある。	

② 事業に取組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)	
ノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・視察研修会参加者に「ジビエ振興に関するアンケート」を実施し、ジビエガイドラインの認知状況や加工処理施設の必要性についての考えを調査したところ、より安心安全な獣肉を提供するためのガイドラインについてはあまり知らない方が多かった。また、町内に加工処理施設が必要だと思いが、自分で整備するまでは考えていない。 ・料理店等に獣肉の提供を実施し、ジビエ料理メニュー開発を促したが、積極的にジビエ振興していきたいという方が少なかった。
ノウハウの活用状況・活用方針	ジビエ振興を図るためには、料理人や捕獲従事者等の連携が必要不可欠であり、施設整備を検討する前に、関係者を対象とした研修会等を継続し、町のジビエに対する盛り上げを図る必要がある。

③ 外部有識者による意見の事業への反映		反映を予定している
反映した・反映を予定している場合 (どのように反映したか・反映するか)	反映できない場合 (その理由と、今後の方針)	
町内の猟師や飲食店等の関係者から、安心安全な獣肉活用に対する考えをアンケートを行うとともに、適切な食肉加工技術等の研修を通じて相互の理解を深めた。		

④ 事業成果
<p>町内料理店や捕獲従事者が、ジビエガイドラインに沿って整備された食肉加工処理施設において解体処理技術を学ぶことにより、より安心安全なジビエ利活用に資することができた。</p> <p>また、獣肉を町内の料理店等に提供することにより、ジビエ料理メニュー開発という目標は達成することができたが、料理の提供は限定的となっており、今後の提供方法について町内料理店等と協議していく必要がある。</p> <p>平成29年度末までの料理メニュー開発3件(鹿ヒレ肉の朴葉味噌風味カツ、鹿ゴロゴロミンチカツ、ジビエコロツケ)</p> <p>平成30年度における料理メニュー開発3件(シカカツバーガー、シカ胡麻ソテー、シカ肉筋膜と筋のオリブオイル炒め)</p>

内部評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・KPIについては、現段階において達成している状況である。 ・単一の自治体での取組だけに止まらず、広域的な連携を図る中で事業を進めていくことが重要。また、ジビエに関して継続的な取組を進めることにより、町全体としての機運の醸成にも引き続き、取り組んでいくことが必要である。

外部評価の結果
<p>ブランドをより強化する取り組みに期待したい。</p> <p>(各事業共通事項)</p> <p>各事業のKPIの達成・未達成の要因分析を踏まえ、第2次戦略に向けて、事業効果の点検・評価はもとより、事業の目的や意義についても、移住・定住につながるよう改善の視点を持ち取り組みを進められたい。</p>

整理番号	2-⑤	課名	商工観光振興課
------	-----	----	---------

戦略分類	2. 若者仕事
戦略事業名	⑤ IJUターン起業促進支援事業
予算事業名	(1)IJUターン等起業促進支援事業、(2)チャレンジショップ整備事業

平成30年度実績額	22,892,308円	令和元年度予算額(6月補正後)	81,541,000円
-----------	-------------	-----------------	-------------

H27	H28	H29
-	<p>(1)IJUターン等起業促進支援事業 町の特定創業支援事業計画に沿って、新規創業及び二次創業推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。</p> <p>町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。</p> <p>・二次創業 2件(コインランドリー、焼肉店) 実績額 10,000千円</p>	<p>(1)IJUターン等起業促進支援事業 町の特定創業支援事業計画に沿って、新規創業及び二次創業推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。</p> <p>町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。</p> <p>・新規創業 1件(観光農園) ・二次創業 2件(広告代理店、レストラン) 実績額 13,500千円</p> <p>(2)チャレンジショップ整備事業 チャレンジショップ運営計画策定</p>

H30	R元
<p>(1)IJUターン等起業促進支援事業 町の特定創業支援事業計画に沿って、新規創業及び二次創業推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。</p> <p>町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。</p> <p>・新規創業 2件(司法書士、食品加工) ・二次創業 1件(飲食店) 実績額 14,139千円</p> <p>(2)チャレンジショップ整備事業 チャレンジショップデザインガイドライン策定</p>	/

事業の概要(実績)



司法書士事務所



食品加工



飲食店

成果を測る指標(KPI・数値目標)	当該事業を利用した起業件数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成26年度)	—		H30年度末	8件	
	目標値(令和元年度末)	累計 10件		R元年6月末	10件	
						80%
						100%

① 数値目標達成状況		達成が見込める状況
達成状況の要因分析	達成に向けての今後の取組方針	
令和元年度において既に2件(新規2件)が事業着手しており、目標値は達成するとみられる。	現段階において、商工会への新規創業に係る相談者も控えているため、更なる起業件数の上積みも期待される。	

② 事業に取組んだことで得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)		
ノウハウの内容	制度の周知に伴い様々なケースが町や商工会に対して相談されるため、事業計画の精査において適切な助言ができる体制が整った。	
ノウハウの活用状況・活用方針	町と商工会等関係機関との連携による創業支援体制の確立により、当該補助事業以外の制度活用においても、幅広く連携可能となる。	

③ 外部有識者による意見の事業への反映		反映を予定している
反映した・反映を予定している場合 (どのように反映したか・反映するか)	反映できない場合 (その理由と、今後の方針)	
IJUターン起業創業支援事業の町外・県外へのPRを図るため、現在計画されているチャレンジショップを有効に活用し、一連の施策として都市部における移住・定住フェア等でアピールする。 同時に、Iターン促進に向けたイメージ戦略として、恵まれた自然環境や子育て支援策等を絡めてアピールする。		

④ 事業成果		
<p>令和元年度に既に2件の新規創業希望者が事業をスタートしており、今年度中のKPI達成については見込める状況である。</p> <p>また、当該補助事業の採択に必要な「創業支援セミナー」の受講や相談件数もコンスタントに確保されており、特に新規創業について上積みが見込める。</p> <p>なお、補助事業者の追跡調査については、商工会において定期的な事業ヒアリングにて、必要な助言等を行い、継続的に操業できる環境を支援している。</p>		

内部評価結果		
<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの達成が見込まれる状況である。 ・ほぼ順調に事業は進んでおり、I・J・Uターンの契機創出に貢献できているところである。そのような中、起業・創業の裾野を広げるべく、チャレンジショップに関する事業の充実・強化を図ることで、おおい町の新たなアドバンテージをアピールすることができると思う。 		

外部評価の結果		
<p>就労・雇用については、人口減少の要因の大きな部分を占めていることが考えられるため、安定した”しごと”の創出という観点からも、地域との協働も含めながら推し進めるよう努められたい。</p> <p>また、関連諸事業との連携についても検討されたい。</p> <p>(各事業共通事項)</p> <p>各事業のKPIの達成・未達成の要因分析を踏まえ、第2次戦略に向けて、事業効果の点検・評価はもとより、事業の目的や意義についても、移住・定住につながるよう改善の視点を持ち取り組みを進められたい。</p>		